



GPM/DPRを使う人
森田 正光

森田 正光 (もりた まさみつ)
お天気キャスター (気象予報士)
民間気象予報・気象キャスター派
遣会社ウェザーマップ社長

森&百：はじめまして。

百：天気予報っていうと雲や空気の流れをよんで、どこで雨が降るの?とか、どれくらい強い雨なの?とかを予想するっていうイメージがあるんですけど…、そうすると世界中の天気を“ありのまま”に観測する「人工衛星」と「気象予報士のみなさん」は、もしかしたらライバルになってしまうのでしょうか?

森：いえいえ、そんなことはないですよ(笑) 現在の天気予報には、人工衛星からの観測データをパソコンを使って計算して予想することが欠かせないんだ。GPM計画によって観測データが増えて、天気予報が今よりもっと正確になるなら嬉しいな。ほんと。

百：それはありがたいです。

森：あと、僕は気象予報士であると同時に気象解説員なんだ。天気の正しい知識と自然災害があった時の備えをみなさんに持ってもらいたいと思って、いつも解説しているよ。自然現象はどうすることもできないけど、ちゃんと備えがあれば災害があった時の被害も最小限にすることができるからね。

百：なるほど。人工衛星による観測、観測データもとに計算して天気予報すること、その計算した天気の様子をみなさんにわかりやすく解説すること、これらは同じ目的でつながっているんですね。

森：そうそう。特に正しい知識と災害があった時の備えてのはほんとに難しいんだ。天気予報は、みなさん「アタリ/ハズレ」で考えるでしょ?だから雪の予報の時に雨が降ると、ハズレたって言われるんだけど、そんな時も高層ビルの窓からは雪が見えてたりするんだよ。つまり、地面に落ちるまでの間に雪が溶けたってことなんだけど、これって実際はハズレじゃないんだよね。

百：そうですね。DPRだと高いところ・低いところの違いが観測できるので、そういった雪から雨への変化もわかるようになります。あと、災害への備えに対しては私たちJAXAのエンジニアは、少しでも正確で誤差の少ない観測データをとるようがんばりますね。

森：よろしくお願いします。解説してて思うんだけど、正確で分かりやすい観測データがあると説得力がまったく違うんだ。そういう意味では、地球全体のデータ(4ページの図)はとってても効果的だし、すごくおもしろいよ。

百：ありがとうございます。地球全体のデータは、人の少ない地域や海の上も観測できる、人工衛星だからこそできることなんです。

森：ホント、おもしろいよ。ぼくなんか、日本を通り過ぎた後の台風がどこまで行くか気になったりするんだ。どこで消えちゃうのかってね。だいたい日本の北東のあたりで消えちゃうことが多いんだけど、そこを「台風の墓場」と名付けてるんだ。

百：なるほど、さすが森田さん(笑)

森：でも、たまにその墓場を超えて、カナダを通って北アメリカまで消えずに行くこともあるんだよ。

百：そんなこともあるんですか!?それは凄い。

森：視聴者のみなさんにも、こういう天気の楽しみを伝えたいね。

百：なるほど。

森&百：GPM計画を通じて、一般の方々が世界に目を向けるきっかけになってくれると、うれしいですね。(意気投合)

最後は晴れ模様で終わった対談でした。



GPM/DPRを作る人
百束 泰俊

百束 泰俊 (ひやくそく やすとし)
独立行政法人宇宙航空研究開発機構
GPM/DPR(全球降水観測計画/二周波降水レーダ)プロジェクト開発員